

ダルニー通信

57
2010
春号



タイ奨学金の締め切りは3月25日です(P 2、3)

● ラオスのプロジェクト報告(P 4、5)

● 新潟で「ラオスクールプロジェクト」がスタート(P 9)



一般財団法人

民際センター

1月6日、朝日新聞のホームページにナイジェリアの記事が掲載されていました。見出しへ「薄給の警察官、市民数百人規模で殺害か」。その記事によると、03~08年に3,000人以上の容疑者が警察官に殺されたそうです。一例として、検問所の警察官に賄賂を渡さなかつたバイクの運転手が「武装強盗」として射殺されたと報じていました。記事では、人権団体のNGOが「警察官の薄給と訓練不足が原因」と指摘していました。警察官や教師など公務員の給料の欠配・遅配が珍しくないそうです。ナイジェリアはアフリカ最大の産油国（世界で12番目の産油国）で、原油と石油関連製品の輸出が2005年には500億ドルに達し、都市部には超高層ビルが、そして海岸線には高級住宅が立ち並んでいます。しかし、1億4000万人国民の約9割が1日2ドル以下の貧困層です。富の多くが一部の政治家や官僚に私物化されているからです。

ナイジェリアとは逆の例としてスリランカがあげられます。英国のNGOオックスファムが出した報告書「公共の利益のために（2006）」によると、同国は人口の3分の1を超える人々が1日2ドル以下で暮らしていますが、妊産婦死亡率は世界で最も低いグループに属しています。そして、同国の1人当たりの国民所得は、豊富な鉱物資源に恵まれ、経済成長著しいカザフスタンの57%しかありませんが、5歳未満の子どもの死亡数はカザフスタンの5分の1だそうです。また、きれいな水を飲み、トイレを使用できる子どももカザフスタンよりはるかに多いそうです。同報告書は、内戦で苦しみながらも、スリランカ政府は公的保健医療サービスや大学教育を無料化し、小規模な保健医療施設を数多く建設したからだと分析しています。

この両国の例から、政府が治安を守る警察と教育や医療、福祉などの社会インフラをしっかり整備・コントロールしないと、たとえ経済収入が大きくても国がうまく機能しないと言えそうです。

では、タイの国づくりはどうでしょうか。

●教育に力を注ぐタイ政府

経済発展の優等生タイの1人当たりGDPは約4,000ドル（2008年）で、もはや低開発国ではなく中所得国の位置を占めています（ナイジェリア1,120ドル、スリランカ1,600ドル）。しかし、警察官や公立学校の教師の給料は民間企業に比べてかなり低いようです。例えば、現場の警察官の給料が1万バーツ（約3万円）に満たないため、一部の警官が賄賂をとて交通違反者

を見逃したり、違法営業店に上納金を要求したりするという噂を耳にします。教育についても、国の教育予算が少ないため、生徒が課外活動費を払わなければならなかつたり、一部の生徒にしか給食を提供できない学校があつたりします。しかし、その一方で、地方の中学校の校舎が立派な建物に改築されていることから、タイ政府が教育に力をいれていることが分かります。また、警察官の賄賂や政治家・高級官僚の腐敗は耳にしますが、観光や投資を歓迎するタイは、秩序の維持＝安全に力を注いでいます。

タイは経済格差がなかなか解消されず、個人レベルでは出稼ぎゆえの一家離散や中途退学などが経済的に貧しい家庭に見られますが、政府が国づくり＝教育に真摯に努力しているので、しっかりと教育を受ければ、将来に希望を見い出すことができます。こうした事情を鑑み、2010年度も引き続きタイ奨学金のご支援をよろしくお願いします。

立松和平さんのラオス訪問記事が、「通販生活」春号（1月15日発売）に掲載されました

昨年9月、ご自身が支援する奨学生に会いにラオスを訪問した作家の立松和平さんの紀行文が、今年1月に発売された「通販生活」2010春号（カタログハウス社）に「微笑の国からの幸福のおすそ分け」と題して、4ページにわたって掲載されています。ぜひご一読ください。

* 2月8日、立松和平さんが急逝されました。謹んでご冥福をお祈りします。

《ナイジェリア、スリランカとタイのケース》

政府の意欲と 国づくり



タイ東北地方スリン県の中学校

週末は、朝早くから夕方まで両親と一緒に畑で収穫作業——。経済発展の恩恵がタイ東北地方の農村部にまで及ぼず、学校に行く前後と週末、家事だけではなく、家計を助けるために親に従って働く子どもたちが少なくありません。ダルニー奨学生も家事はもちろん、様々な労働に従事しています。

●お母さんは死亡、 お父さんはHIVに感染



おばあさんと串を作るアリサ



家の前でお父さんと

●「家が貧しいので、働かざるを得ません」

►ナッタの両親は農業労働者で、お米の販売収入と近隣の畑での収穫の手伝いで労働収入を得ます。ナッタは週末、朝6時に起きて両親と一緒に畑に行き、唐辛子を摘んだり、玉ねぎの皮むきを手伝ったりします。仕事が終わるのは午後4時頃。それで1日100バーツを稼ぎます。彼女は「家が貧しいので、一生懸命働かざるを得ません」と言いますが、労働から帰宅すると、クタクタです。「将来は看護師になりたい。両親や村の人人が病気になっても、助けられるから」と夢を語ってくれました。

家計を支えるために働く 中1のタイの奨学生たち

●鶏の羽をむしりながら 「将来は歌手か作曲家に」

▼ニッタヤのお母さんは再婚し、市場で鶏肉を売っています。彼女は学校が終わると掃除や洗濯、料理や皿洗いをし、さらに鶏の羽をむしり取る仕事を手伝えます。そして果物と一緒に市場まで運びます。家族の収入は月約5,000円です。ニッタヤは歌が好きで、将来は歌手か作曲家になりたいと思っています。「奨学金でカバンとガールズカウトの服や文房具などを購入しました。他の人だってなれるんだから、私もきっと歌手か作曲家になれると思う」と明るい口調で言いました。



お母さんと鶏の羽をむしるニッタヤ

◀アリサのお母さんは亡くなり、お父さんは再婚しました。お父さんはバンコクに出稼ぎに行きますが、HIVに感染しているので、長時間の重労働ができず、収入は限られています。そのため、アリサはおばあさんを手伝って串を作ったり（写真左）、玉ねぎ畑で働いたりします。家では掃除や洗濯、水がめに水を溜めたり、幼いきょうだいの面倒をみたりします。彼女の労賃は1日30バーツ（約90円）。家にお金がなくなると、おばあさんにお金を借りに行きます。夢は先生か医者になること。子どもに話したり教えたりすることが好きだし、病気の人を助けたいとも思うからです。



唐辛子を摘む作業をするナッタ

このページで紹介した3人の中学生は、三井住友海上軽音楽部＆スマイルハートクラブが支援している奨学生です。

2009年度1校1事業(OSOP) プロジェクトに参加している 9校の進捗状況

奨学金の為替差額から生じるお金を資金に、2008年度からラオスで試験的に実施しているOSOPは、2年目の今年度は9校を数えます（下表参照）。将来の村の自給力向上のため、生徒が学校で地域資源と技術を使って有機農業や養豚・養魚などを学んでいます。来年度からは、いくつかの学校で給食事業も組み入れます。

【ムアンソム中】 同校では昨年、300匹のテラピアの稚魚と400匹のコイを購入して飼育を始めました。また、校庭でレタスやパクチー（香菜）などの有機栽培もスタートしました。同校が頭を悩ますのは、乾季に水不足になり、池の水が減少してしまうことです。

【クアンドン中】 全校生徒150人のクアンドン中学校では、親豚（雌3匹、雄1匹）の世話ををして、昨年10月に1匹の雌豚が7匹の子豚を産みました。子豚は1匹1,500～2,000円で販売できます。しかし餌代が月約4,000円もかかり、収支は厳しいのが現状です。

【シビレイ中】 2009年度は山羊の飼育とともにバナナの木を250本植えました。山羊はあまり餌代がかからず、しかも1頭数千円で販売できるので豚より収入を得やすいのですが、今年度は病気になったり、盗まれたりして管理の大変さがわかつたため、残っていた山羊をすべて売り、現在はバナナの栽培に絞っています。

県名	学校名	事業内容
カムアン県	ムアンソム中学校	テラピアの養殖、野菜栽培
	クアンドン中学校	養豚
	ポネクシ小学校	ナマズの養殖
	ハドシェンチー小学校&中学校	野菜の有機栽培
	バングバオ中学校	マッシュルーム栽培
	ヨームマラッド中学校	マッシュルーム栽培
	パナム小学校&中学校	山羊の飼育
	シビレイ中学校	山羊の飼育とバナナの栽培



ムアンソム校で育てている野菜(見出しの写真)。上は同校の生徒が魚にえさをやっている



ハドシェンチー小中校の生徒が校庭の菜園で野菜の種をまいている



クアンドン中学で飼っている母豚とその子豚

ラオスの プロジェクト情報

これまでに掲載したプロジェクト紹介は年1回程度でしたが、今号から、できるだけ頻繁にプロジェクトの背景や進捗状況、成果、生徒や先生のコメントなどを紹介します。

●図書

放課後、生徒が 読書をするよう になった！



木の下で本を読む生徒

バンピン小学校は、児童の6割が貧困家庭といわれていますが、同校に2007年、図書セットが寄贈されました。「本が届けられる前と後とでは、児童たちに大きな変化が見られます」と教頭のカムタさんは言います。「以前は授業が終わると、みんな直ぐに家に帰って行ったのが、図書が届いた2007年以降、放課後に図書室を利用する児童が月500人以上に上ります」。

カンポシー小学校4年生のヴァタナさんは、2年生の頃は読む本もなく、知識が乏しいため先生に質問されても答えることができませんでした。学校にたくさんの本が贈られた時、友だちの勧めで本を読み始め、今では読み書きも上達し成績もぐんと良くなりました。彼女は読んだ本のストーリーを上手に友達に語って聞かせることもできます。

●校舎建設

25、26校目が完成。 喜びと涙に包まれた 竣工式。



校舎の竣工式

2009年11月、カムアン県KM7村で当センターが手がけた学校の25校目が竣工。同校を寄贈した田中さんも名古屋から参加し、強風の中、郡の教育局長や村長をはじめ、村人、生徒が総出で田中さんを迎えて、校舎の贈呈式が行われました。KM7村はカムアン県のマハサイ郡というメコン河畔からベトナムへ通じる道

の半ばに位置する山間の小さな村。今まで風雨が吹き込む老朽化した校舎で勉強していた子どもたちが新校舎を目に見て、竣工式は喜びに満ち溢っていました。

同年12月、カムアン県ハドシェンジー村で26校目にあたる学校も竣工しました。子どもたちが「柱が今にも倒れそうな」校舎で勉強をしていたのを一家理恵さんが見て、ご寄付を申し出られた校舎です。共同寄付者のステファニー化粧品の一家社長が竣工式に参加、子どもたちや村人と竣工を祝いました。その模様をラオスの新聞KPLはこう伝えました。

「竣工式に参加できなかった一家理恵さんの愛情あふれたメッセージは村人の心をうち、涙ぐむ者もいた。新校舎は数々の近代的な特徴を有している。設計した建築家は沢山の窓や扉を設け、屋根を二重構造にすることにより空気の循環を促し、子どもたちが勉強しやすい環境とした」。

●ブーンライ保健衛生

うがいや手洗いなど、予防についてPR活動 を実施



予防について
説明

同プロジェクトは健康診断、薬箱の設置、病気・怪我の際の病院での治療費の一部助成をプロジェクトの3本柱にしています。これらはいずれも病気や怪我をした後の対処で、予防措置は含まれていません。そこで、ラオス事務局はセーコーン県のパクトン校で、同事業のPRも兼ねつつ、病気の原因やうがいや手洗いなど感染症の予防、さらに栄養のある食事などについてセミナーを開きました。子どもたちの関心を引くために、絵や写真を多く使ったパネルを用いたり、クイズ形式にして回答した子には小さな景品を提供したり、学校にポスターを貼ったりして注目を喚起しました。

ブーンライ保健衛生プロジェクトは会費制（月6～7円）をとっており、パクトン校では参加する生徒が半数をやや超える程度だったのですが、今回のセミナーの後は82%になりました。

【お問い合わせ】 プロジェクトの資料を用意しております。ご関心のある方は、民際センター事務局までお問い合わせください。

2010年度研修旅行について

5月のタイ研修旅行は実施しません

これまで毎年、タイ研修旅行を5月、11月の2回、ラオス研修旅行を10月に実施してまいりましたが、2010年度はタイ研修旅行の実施を1回とし、ラオスに加えてカンボジア研修旅行を定期的に実施します。2010年度に実施予定の研修旅行につきましては、以下の表のとおりです。10月のラオス研修旅行は次号58号で、11月のタイ研修旅行については59号でご案内する予定です。

5月のタイ研修旅行に参加しようと予定している方には、大変申し訳ありません。現在、研修旅行の内容の見直しを行っております。何卒ご理解頂きます様、お願い申し上げます。

2010年度研修旅行実施計画(予定)

月	実施国
10月	ラオス
11月	タイ
2011年2月 または3月	カンボジア



NGOゴスペル広場がゴスペルコンサートでダルニー奨学金を支援

3月28日に東京・新宿でコンサート

2005年からラオスの子どもを支援している「NGOゴスペル広場」がニューヨーク出身の黒人シンガー2人を迎える、3月28日、東京・新宿文化センターで「第2回 GOSPEL FOR PEACE」を開催します。同コンサートは「楽しい時間のために使ったお金が、別の場所で大きな力になる」という考えで開催され、前売券1,800円（当日券2,300円）に含まれる100円で、5つの参加NGO団体の中から好きな団体を支援できる仕組み。ぜひ皆様のご来場をお待ちしています。詳しくは、同事務局にお問い合わせください。【電話03-5428-8638】

シニア合唱団"ヴィンガーズ"が奨学金支援感謝コンサートを開催

2009年12月18日（金）、合唱団「ヴィンガーズ」のコンサートが開催されました。ヴィンガーズは平均年齢77歳（！）の合唱団で、年2回行うコンサートの収益から、当センターを通じてラオスの子どもたちの就学をご支援くださっています。

当日は配られたパンフレットに「ヴィンガーズ」が支援する子どもたちの写真を大きく紹介してくださいました。センター職員も壇上でご挨拶する機会をいただきました。

コンサートは戦中・戦後のカフェを想定した舞台に、歌だけでなくコメディー風のお芝居も交えたショー。選曲も思わず一緒に口ずさみたくなるものが多く、観客とステージ上の出演者が一体となって楽しんでいらっしゃり、歌うことのすばらしさを改めて実感した夜でした。次回チャリティーコンサートは2010年6月5日（土）に開かれます。「ヴィンガーズ」ホームページ：<http://www.episteme.co.jp/>

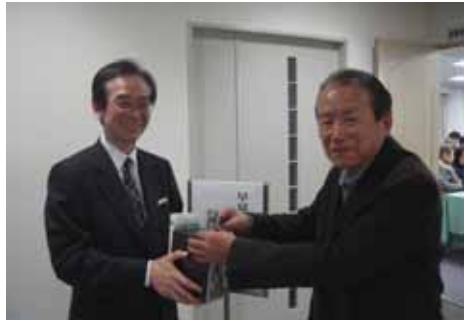




セミナーで募金箱を片手にダルニー奨学金への寄付を呼びかける早見氏

協力企業紹介

投資セミナーで 募金を 呼びかける



早見氏が持つダルニー奨学金の募金箱にセミナー参加者が寄付

儲けたいのなら まず吐き出しなさい

「儲けたいのなら、まずは吐き出しなさい」

弊社の代表である株式評論家・早見雄二郎は、毎月行っている株式セミナーの席上で、来場のお客様にこう話をさせていただいております。

投資をする人の根底には「儲けたい」という欲求もありますが、同時に未来のあるものに自分の資産を投げ応援することもまた、投資の本来の形です。

そして冒頭の言葉につながるのです。

「儲けたいのなら、まず吐き出す…？」ちょっとクエスチョンが浮かぶ言葉かもしれません、私たちの身の回りに例えてみたらお分かりいただけると思います。

私たちは生きるために呼吸しています。酸素を吸うことが出来なければ、たちまち死んでしまいます。ではなぜ言葉では、「吸呼」ではなく「呼吸」つまり吐くほうが先なのでしょうか。新鮮な空気を吸うためには、まず体内にある二酸化炭素を吐き出して、新しい空気のスペースを作つてあげることで、きれいな空気を目いっぱい吸い込むことができるのです。もし、吸うだけだったらど

うでしょう？吸って吸って吸って…最後はドッと吐き出すことになってしまいます。先に吐き出すから、吸うことができるのです。

投資も同じで、儲けたい、儲けないと自分が得ることばかり考えていては、最後にどつと吐き出すことになってしまうのが、悲しいかな人の道理。でも、儲けるためにまずは吐き出してみたらどうだろう？そうした心の豊かさが、逆にお金を呼び込むのです。それはまた、人を助けることにも通じていると考えています。

「情けは人のためならず」という言葉通り、自分のために自分ができるサポートをさせていただき、次世代を担う子供たちの未来のドアを少し開いてさしあげることが、ひいては自分のためになる。私たちの生きる次の社会のためにになる。そう考えたいのです。

これからも、株式セミナーの席にダルニー奨学金募金箱を設置し、投資家の皆さんに声かけを続けていきたいと思っています。

修学旅行で事務局を訪問しませんか？

学校で書き損じはがきやインクカートリッジの収集をしているけれど、どのように役立っているの？支援している子どもたちはどんな生活をしているの？－そのような疑問を持っている生徒さん、事務局を訪問しませんか？民際センターでは修学旅行生のグループ訪問を積極的に受け入れています。総合学習の場としてぜひご活用ください。スタッフがラオスやカンボジアの生徒たちの様子、学校風景などの映像を使ってわかりやすく説明します。まずは、お電話ください。 T:03-5292-3260 担当：本田、富田

【生徒の感想から】

- ・日本の人口と同じくらいの子どもたちが学校に行けないと聞いてびっくりしました。
- ・一番心に残ったのは、普段自分が普通にやっていることは普通じゃないということです。蛇口をひねれば水が出てくるって特別なことだったんだ。
- ・今日から私たちに何ができるかを考え始めました。まずノートや消しゴムを最後まで使う！
- ・民際センターで学んだことを文化祭で1・2年生に伝えていきたい。
- ・僕は今後書き損じ葉書集めに積極的に取り組みたいと心から思った。



山梨英和中・高等学校が「ウォーカソン」で支援



学校からスタート。山あり谷ありの道を走る

山梨英和中学校・高等学校では、2年に一度、ウォーカソン（強歩大会）を実施しています。23.5キロのコースを5つの区間に分け、区間ごとに親などとスポンサー契約を結び、走った区間分の契約金をダルニー奨学金として送金しています。2009年度のウォーカソンで、支援を始めてからちょうど20年経ちました。今回は、オリンピックマラソンメダリストの有森裕子さんが特別ゲストとして参加してくださいました。

今回のウォーカソンは、練習のときから常に真剣に取り組むよう心がけました。自分に負けないために、体育の授業では、本当に辛い中、自分と戦うようにしました。私は2年前に、タイで行われた民際センターの記念事業に参加し、タイ・ラオス・日本の中学生30名で、自分たちが抱えている課題解決の方法を探り、平和な社会を作り出すためにできることを協議する貴重な体験をしました。そこで会った、タイやラオスの子たちや今も貧困で苦しい思いをしている子たちのためにも一生懸命走ろうと心に誓っていました。

高校に入って、部活動もしていないくて、同じような毎日を過ごしながら、先のことを不安に思っていましたが、ウォーカソンの練習や当日の辛い道のりを通して、気持ちが軽くなったように感じました。何か一つのことに対する想いをしぼり、それに向かって努力することが大切だということに気付きました。

タイ・ラオスの子たちのために、また自分のためにも最後まで走り抜けたことを本当に嬉しく思っています。2年前と今回の契約金で、私は一人の子の1年間の支援ができたことになります。どんなに遠くにいる子たちでも、私と同じ世代の子たちの役に立てるることはすごく嬉しいので、今回の自分の努力が実ったと思うと、自分自身にも自信がつきました。

仲間と協力して、他人の力になれたら嬉しい…

しめざわみこと
山梨英和高等学校1年 注連澤 美琴

スタートからゴールまで先生や保護者の方から声をたくさんかけてもらい、それが心の支えとなり、最後には、涙が出そうになって、自分でも驚きました。きっと、それまでの努力が大きく影響したのだと思いました。有森裕子さんが言っていた「本番までに何をするかが重要」という言葉の意味が最後の最後によく分かった気がしました。タイ東北部も少しづつ豊かになっているようですが、まだ完璧なわけではありません。自分たちにできることを少しでも多く見つけ、仲間たちと協力して、タイ、ラオスまた、他の人たちの力になれたら嬉しいです。今回のウォーカソンで学んだたくさんのことを見忘れずに、これからも頑張っていきたいです。

※山梨英和中高等学校は、前回のウォーカソンでタイ奨学生22人とラオス奨学生33名（いずれもAタイプ）を支援しました。



23・5キロを走りぬいて、ゴールイン!

お詫び

昨年12月にお送りしたラオス奨学金証書発送に際し、以下の点において不備がございました。ご迷惑をお掛け致しました方々へ深くお詫び申し上げます。また今後は二度とこのような間違いがないよう事務局をあげて改善していく所存です。

1. ラオス奨学金証書の不備
 - ・「備考」欄記載事項が2文字欠けている
 - ・「備考」欄記載事項における生徒番号未記入
 - ・「奨学生の情報」欄の兄弟/姉妹数の不備（兄弟/姉妹の数に1を足す必要があります）
2. パッケージの不備
 - ・透明パッケージの使用

新潟の学生グループがラオスに校舎を建設する 「ラオススクールプロジェクト」スタート

(街頭募金、フリーマーケット、
学園祭のバザーなどで募金活動)

スクールプロジェクト代表 白井 啓介

私たちは、平成21年1月に「ラオススクールプロジェクト」(通称ラオスク)を立ち上げ、ラオスに小学校を建設することを目指し活動しています。子供たちの教育の支援を手伝うことは、現在、学校(大学)で学ぶ喜びを感じ、恩恵を受けている私たちだからこそ、すべきことなのではないかと思います。実は、国際関係に興味はあっても、支援活動をするのは初めてという学生がほとんどです。

学校の建設は民際センターを通じて行いますが、資金目標は700万円と伺いました。私たち学生にとって途方もない金額ですが、街頭募金、フリーマーケット、新潟総踊りや地域のお祭り、各大学の学園祭でのバザーなどを通して少しずつ資金を集めています。この活動には、新潟国際情報大学、新潟大学、新潟青陵大学、新潟県立大学など新潟市の大学の他、複数の高校も参加しており、延べ50名以上が頑張っています。企画から手続き、広報など学校を超えてネットワークを作り、知恵を出し合って活動をしています。

イベントごとに新しい出会いがあり、仲間が増え、留



学生との交流も増えました。また、平成21年11月に新潟で行われた全国ドナー連絡会では、活動紹介の機会を頂きました。他県のドナー連絡会の方々から、多くの助言と励ましの言葉を頂くこともできました。また、私達も加わり、新潟で国際支援活動を行う学生をサポートするための団体、特定非営利活動法人新潟国際援助学生ボランティア協会(通称NASVIA)も発足しています。

この一年みんなで力を合わせ頑張りましたが、今日までに集まった金額は80万円ほどで、道のりは遠いのですが、NASVIAのサポートを受けながら必ず夢を実現いたします。

→ラオススクールプロジェクトへのご寄付は[こちら](#)からです。

【銀行口座】

第四銀行 内野支店 普通 1799170
ラオススクールプロジェクト 募金 代表 白井啓介

海外事務所のスタッフ

教育の機会提供と教育環境の整備でEDFタイの役割大きい

民際グループが22年間に延べ30万人を超える奨学生に奨学金を提供し、彼らの経済的貧困の削減に貢献できることに私は誇りに感じております。と同時に、これはひとえにドナーの皆様のご支援の賜物であると深く感謝しております。

私がタイ事務局(EDF)に勤務して12年、タイの経済はそれまで以上に発展しましたが、その反面、経済格差がますます広がり、私たちが支援している東北地方農村部では、仕事がないため子どもを残して都市部に出稼ぎに出る人が絶えず、その結果、夫婦が離婚をしたり、家族がバラバラになったりするケースがしばしば見られます。そして、将来に希望が持てず、暴力や麻薬に溺れたり、人身売買やエイズの犠牲になったりする子どももあります。

こうした状況の中で、EDFの役割はますます大きくなっています。EDFは誰もが基礎教育を受けられるように子どもたちに奨学金を提供するとともに、それ以外に、学校環境の整備などを目指したプロジェクトを200校以上の学校で実施しております。OSOP(1校1事業)、パソコンのスキルを学ぶ教育環境整備、障がい児の教育支援事業などはその1例です。

私は、つらく苦しい時、一生懸命努力していれば、必ず手を差し伸べてくれる人はいる、そうした人間の善良さを感じています。私たちの事業は皆さまの支援がなければ、実施できません。教育は貧困に立ち向かい、そこから抜け出す力を子どもたちに与えます。子どもたちが基礎教育をしっかりと受けられるよう、これからも引き続き、ご支援の程よろしくお願ひいたします。



タイ事務局 事務局長
サンペット・ニラット

多くのタイ人奨学生に会って、日本好きなタイ人を増やしたい。 2007年に奨学生を日本に招待。 「努力すれば夢がかなうということを知ってほしかった」

Q1. ダルニー奨学金支援のきっかけは？

私が勤めていた会社で1997年末に環境マネジメントシステム（ISO14001）を取得する方針が示されました。そこでまず、その事務局として環境問題を勉強しなくちゃ！！と、いろんな本を読んだり、講習会に出席しているうちに環境NGOのメンバーと知り合い、詳しい内容を教えてもらうようになりました。環境問題がだんだん国の大枠を越えたものになっていることに気が付き、いくつかの途上国に調査に出るようになりました。そして、環境だけではなく、さまざまな問題が教育のアンバランスから発していることに気がついたのですが、そんな時、新聞記事で「ダルニー奨学金」に出会いました。

Q2. その後、地元の静岡で連絡会を作りました。また、ダルニー連絡会全国会議も数年に1回のもちまわりで地元で開催されています。連絡会をつくったり、全国会議を開催したりするのはなぜですか？

自分のできる範囲で支援の輪を広げるのに、連絡会が一番効果的だと思ったのです。また、全国会議を地元で開催し、その様子を連絡会で報告すると、仲間が仲間を呼んで、そのまた仲間がと増えていきます。

Q3. ここ数年毎夏、ご自身が支援している子どもに会いにタイ東北地方（イサーン）を車で横断しています。それはなぜですか？子どもたちに実際に会うことは、どのような意味がありますか？

タイの子ども達に直接逢うことで、日本好きな子ども達が増えるのではないかと思います。その結果、日本の子ども達とタイの子ども達が協力するようになる

でしょう。イサーンは私の子どもの頃の日本によく似ています。今のイサーンが経済的に自立できるように、しかも日本のような経済一辺倒の発展ではない方向で自立ができるようになってほしい。そのためには教育支援は大事です。

Q4. 逆に2007年秋に、支援している奨学生を日本にも呼び寄せました。その意図は？

やはり、「日本が好き」な子どもがタイにいることの大切さです。資源の無い日本は「人」が一番の資源です。また世界中のどの国とも仲良くしなくては生きていけない国です。人と人との繋がりを大事にするために、まず私の子ども達（日本・タイ）が仲良くなればと思います。それから、来日したタイの二人の子どもには「努力すれば、日本に行きたいという願いが叶う」ということを知って欲しかったのです。

Q5. 連絡会で新しいプロジェクトを始めたそうですが、それはどんなプロジェクトですか？

「バレーボール1000個プロジェクト」です。来年度から、公式戦で使われるボールの変更があり、今までのボールは使えなくなります。その結果、日本中にまだ使えるボールがたくさん余るわけです。それで、まず静岡の協会に働きかけて、タイ・ラオスの子供達に提供してもらうことにしました。練習用には何の問題も無いボールですが、現地で買うと3,000円くらいします。収入を考えれば大変な負担です。1個のボールで大勢が楽しめるバレーですから、沢山集めたいですね。民際センターには安い送付のノウハウを教わりたいです（笑）。

【畠寛和氏プロフィール】

兵庫県姫路市生まれ静岡市在住。電機メーカーに30年勤務後、現在は経営コンサルタント、ISO審査員、公認バレーボール指導者、環境カウンセラー、大家さん、と本業不明状態。趣味は映画、音楽、吉本興業（笑）。



シニアコミュニケーションはシニアの生活を豊かにするお手伝いをしています。

シニア世代の知識経験を 還元できる社会を目指して

日本は世界でも類を見ないほど高齢化のスピードが早く、50歳以上が全人口の大きな割合を占める「シニア型社会」を迎えています。

シニアコミュニケーションは、シニア世代がいきいきと暮らし、その知識や経験を還元できるような新しいモデルを日本で創るべく設立いたしました。

現在、シニアコミュニケーションが運営する50歳未満お断りのコミュニティサイト「シニアコム.JP」(<http://www.seniorcom.jp/>)では、30万人の会員が登録し、3万個のブログが立ち上がっています。

その中からシニアのニーズを導きだし、シニア向け商品やサービスの開発、シニア人材の活用事業を行う他、シニア世代を対象にしたビジネスについてのコンサルテーション、プロモーションなどシニア向けの様々なビジネスを展開しています。

シニアコミュニケーションの 社会貢献活動

シニアコミュニケーションでは、2009年からカンボジアの教育支援に取り組んでおり、この支援がご縁で民際センターの活動も応援することになりました。2010年秋に開催する美のイベント「東京マダムコレクション」を通じてダルニー奨学金を支援していきます。



シニアコミュニケーション社長の山崎伸治氏、民際センターの理事で作家の阿刀田高さん・慶子夫人が国際支援活動の話題で盛り上がりました。右から山崎氏、理事長の秋尾、阿刀田高・慶子夫妻

TMC
TOKYO MADAM COLLECTION
2010

東京マダム
コレクション

<http://t-madam.jp>

■開催■

2010年9月18日(土)19日(日)予定

■会場■

東京ミッドタウン

■主催■

東京マダムコレクション実行委員会

■企画・運営■

株式会社シニアコミュニケーション

美しさを追求し、美しくありたいと願う

40代なかば以上の女性の祭典

「東京マダムコレクション」が、

2010年9月、東京ミッドタウンを会場に開かれます。

真の美しさとは、外見だけでなく内面も輝くこと。

中身の美しさを備えた女性が集い、

美しさをさらに追求する、

大人の女性のためのまったく新しい美の祭典です。

「東京マダムコレクション」は、

大人の女性の美を集結させて、

日本に明るい話題を提供します。

海外の子どもたちの教育をサポートするという心の美しさが

日本全体に広がってほしい。

そうした願いを込め、

「東京マダムコレクション」は、ダルニー奨学金を応援します。



株式会社シニアコミュニケーション

事務局活用 リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様のお問い合わせやご要望にお応えしています。ご利用につきましては、下のとおり必要なものを同封の上ご請求ください。

● 地域で奨学生を広める活動をしたい

- ① 書き損じはがき・未使用テレカの収集
- ② 使用済みインクカートリッジの収集
- ③ 不要な本を集めて送る
- ④ 募金箱を設置したい

①～④：80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください。折り返し、該当する資料を送付します。②はポスター、④は申込用紙も同封します。①、③はメールでもお問い合わせできます。①については、箱に貼るエコ型はがき・テレカ収集箱作成セットも用意しておりますので、ご希望の方は枚数をお知らせください。

● 奨学生や現地のビデオを見たい

広報ビデオ（13分）やNHKで放映された番組「元奨学生感謝の来日」（20分）など。また、パネルを貸し出すこともできます。（送料実費）

● 個人でタイを訪問し、 奨学生に会いたい

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください（メール可）。折り返し、資料をお送りします（3～5月と10月、学校はお休みです）。

● 奨学金の説明を聞きたい

事務局では毎月第2水曜日（12:30～）と第3火曜日（17:00～）に無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

● タイの奨学生と文通したい

- ① 手紙の翻訳
- ② タイの切手購入

①：タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と80円切手4枚を同封して送ってください。
②：タイ切手セット（12回分1000円）の代金は郵便定額小為替か現金でお願いします。80円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。

※奨学生の氏名をカタカナで読みたい方は、電話、メール、ファックスでお問い合わせ下さい。

● 事務局でボランティアをしたい

PC入力、DTP・WEB制作の経験者、事務作業など。電話で担当、窓口までお問い合わせください。

● 每年忘れずに送金したい

お申し込みいただければ、自動振込用紙（ゆうちょ銀行）を無料で送付します（タイのみ）。

編集後記：数年前にラオス・セ考ーン県のホーセー村（人口約1,200人）に滞在した時のこと。旅行参加者の一人が「かぼちゃが好き」と言ったら、その情報が村中にあつという間に広まり、翌日からその参加者のもとに次から次へと大きなカボチャが届きました。宿泊先や村を歩いているときに、お母さんや子どもがスッとカボチャを差し出します。それとは別の研修旅行で、こんなこともあります。その旅行は2年毎にラオスのパクトン村を訪問しますが、昨年11月に同村を訪問した際、2年前に宿泊した家庭に前回撮った写真を渡しに行ったところ、お母さんが妊娠中に彼女の夫が亡くなったことが分かりました。生まれた赤ちゃんも含め3人の子を抱えたお母さん（30歳ぐらい）はちょっとやつれた感じがしました。「生活は？」「親せきが助けてくれるので、何とか生活していくけます」・・・。その2日後、村を出発する直前、3人の小さな子どもを連れたお母さんが私たちの宿を訪れ、写真のお礼に大きなココナツをくれました。経済的には貧しい。でも村には1人のホームレスも見かけません。助け合いの人間関係が生きているのを感じました。（富）



ダルニー通信 第57号 2010年3月1日発行 発行人：秋尾晃正

一般財団法人民際センター 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巣町518 司ビル301号

TEL: 03-5292-3260 FAX: 03-5292-3510

Eメール: info@minsai.org ホームページ: http://www.minsai.org/

振替口座: 00150-0-57664

表紙: ラオス 撮影 東谷 高明

— 紙面レイアウト協力 —

吉田シャショク 福岡県大牟田市小浜町1-5-17 ☎0944-51-8604